

2017年1月31日 ドイツ ミュンヘン

2017年度 第1四半期決算

2016年10月1日～12月31日

シーメンス、引き続き好調な業績を達成 — 業績見通しを上方修正

「2017年度第1四半期が力強い業績を収めたこと、また2017年度の業績見通しを上方修正したことなどが、明確な証と言えます。私は全世界のシーメンスの社員が力を尽くし、成功に導いてくれたことを大変誇りに思います。今後も戦略であるVision 2020の実施に注力し、さらにイノベーションの力を強め、顧客と信頼関係をさらに密なものにしていきたいと考えています」と、シーメンス AG 社長兼 CEO のジョー・ケーザーは述べています。

- 短期サイクルの事業が力強い結果を出し、為替の影響及びポートフォリオ効果を除く比較可能なベースで、受注は前年同期比 3%増
- 大型受注のあった前年同期と比較すると、受注は比較可能なベースで前年比 16%減
- 受注が売上を超え、出荷受注比率は 1.02
- 名目上は、売上は前年同期 1%増の 191 億ユーロ。受注は 14%減の 196 億ユーロ
- 力強いオペレーションの実施と 1 億 7200 万ユーロのポートフォリオ益があったことにより、産業関連事業の利益幅が伸び、利益率は 13%増、産業関連部門の利益は前年同期比 26%増の 25 億ユーロ。ポートフォリオ活動は 4 億ユーロの利益を計上
- 当四半期純利益は前年同期比 25%増の 19 億ユーロ。基本的 1 株当たり当期純利益 (EPS) は 2.35 ユーロ (前年同期は 1.89 ユーロ)

シーメンス(全体)

(単位:100万€)	Q1		比較(%)	
	FY 2017	FY 2016	Actual	Comp
受注	19,554	22,801	(14)%	(14)%
売上	19,119	18,891	1%	3%
産業関連事業の利益	2,514	1,990	26%	
内、退職手当	(48)	(52)		
産業関連事業の売上比率	13.0%	10.4%		
退職手当を除く	13.2%	10.7%		
継続事業からの利益	1,927	1,484	30%	
内、退職手当	(63)	(62)		
当四半期純利益	1,938	1,557	25%	
一株当たり当四半期純利益	2.35	1.89	25%	
フリーキャッシュフロー (継続事業・非継続事業)	714	(728)	n/a	
ROCE(継続事業・非継続事業)	18.9%	16.3%		

- 為替の影響により、受注で1%減、売上で2%減。ポートフォリオ効果は前年と比較すると最小にとどまる
- 大型受注のあった2016年第1四半期と比較すると、今四半期は大型受注案件の減少により受注も減少
- 産業関連事業の受注残は1150億ユーロ
- 大半の産業関連事業において売上増
- 産業関連事業の利益:ほぼすべての産業関連事業において高い利益を達成。デジタルファクトリー事業本部では、最も高い利益と大幅な伸びを見せた。とりわけ電気自動車(eCar)関連の合併事業において1億7200万ユーロの利益獲得。Healthineersとパワー&ガス事業においても力強い売上成長による大幅な利益増
- 継続事業の純利益:産業関連事業の高い利益と、税引き前4億900万ユーロに上るポートフォリオ活動が利益増に貢献。前年同期は繰越税金負債の取崩しによる税金費用の負担減少が見られた
- 力強い運転資本管理により14億ユーロのプラスに貢献。産業関連事業のフリーキャッシュフローは、前年同期の6800万ユーロから12億8600万ユーロへ成長。エネルギー管理事業、モビリティ事業、風力発電&再生可能エネルギー事業の改善によるもの
- ROCE:平均資本投下の緩やかな増加にも関わらず、当期純利益の好調により、ROCEも大きく成長
- 2016年12月31日時点でのシーメンス企業年金は111億ユーロの積み立て不足(2016年9月30日時点では137億ユーロの積み立て不足)。割引率の上昇により積立不足を一部減少させた

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざま、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG (ドイツ・ベルリン) が 2017 年 1 月 31 日 (現地時間) に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます (英文)。

[http://www.siemens.com/press/en/events/2017/corporate/2017-q1.php?content\[\]=Corp](http://www.siemens.com/press/en/events/2017/corporate/2017-q1.php?content[]=Corp)

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コミュニケーション部 中川

Tel: 03-3493-5022

E-mail: rie.nakagawa@siemens.com